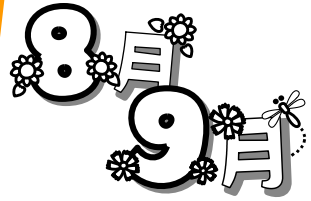


休

令和2年



さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

「あたりまえ」ではなかったこと

校長 渡辺 明

例年の三分の一ほどの夏休みを終え、2学期が始まりました。私自身にとっても教員生活で未だかつて経験したことのない短い夏休みですが、春の頃のことを思えば、学校に子どもたちを迎え入れることができるだけでも、ありがたいと感じてしまいます。

とはいえ、この夏はどこかに出かけるにしても制限を感じたり、また、心中様々な心配をしたりということもあって、なかなか楽しめない夏休みだったかもしれません。こんなとき、開き直って普段じっくり時間がかけられないようなことを自宅で楽しむのも一つの選択肢ですが、子どもたちのエネルギーのもっていきどころには、ご家庭でも苦心されたのではないのでしょうか。

夏休みに入る前には、学校では「普段できないことにチャレンジしよう」とか、「お出かけのことを絵日記にしてみよう」とか、そんな定番となっている言葉をかけますが、そういう言葉も何かしっくりこない気がしました。夏休みにおじいちゃんの家遊びに行くとか、海水浴に出かけるとか、そんな当たり前のようにあった夏の風景が、今年は当たり前でなかったかもしれません。そんな、今まで当たり前のこととして感じていたものが、この半年ほどでずいぶん揺らいでしまったのではないのでしょうか。



さて、この「当たり前」という言葉ですが、その対義語をご存じでしょうか。「当たり前」の逆ですから、「当たり前ではないこと」です。当たり前でないことを指す言葉には、どのようなものがあつたでしょうか。

実は、「当たり前」の対義語は、「ありがとう」なのです。ありがとうは漢字で書くと「有難う」、つまり、普通では有ることが難しい状態、滅多にないこと、そんな稀にしかないような奇跡に感謝する言葉であり、誰かに親切にしてもらったときなどには、「この親切は、滅多にないほどうれしいものです」という気持ちで「ありがとう」というのだそうです。コロナ禍で、当たり前だったことの大切さを改めて感じる毎日だからこそ、ありがとうの言葉もさらに重みを増しているように感じます。

学校にもいろいろな当たり前があります。朝から学校に来るのが当たり前、自分の机で静かに授業を受けるのが当たり前…。しかし、考えてみると、大人にだって布団から出たくない朝はあります。45分の授業を6回繰り返し受けることも、実は結構大変なことではないのでしょうか。当たり前のように見えていても、子どもたちは結構頑張っているのだと思います。とくに今年はいろいろな我慢を重ねているはずです。

今まで当たり前に行っていた運動会も、今年はこれまで同様にはできません。市内では、中止とする学校、授業参観として学年ごとに実施する学校など、様々です。本校では、校内行事が無くなっていく現状を踏まえて、『三密』を避けたプログラムの工夫、距離の確保、動線の整理などに努めながら、それでも全校が一丸となって過ごす実感をもてる時間を作りたい、そして思い出に残したいという思いをこめて、できるだけ子どもたちのイメージに近い運動会を実施したいと考えています。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。